

チム九

印刷を支え加工を活かす



ことで責任感も増しました。今こそ責任ある仕事を任されていますが、入社5〜6年目のときに辞めようと考えたこともありましたが、その頃まで仕事をする度に不良を出し、怒られては自信をなくし出社意欲がなくなっていました。

一方この状況を傍で見ていた寺山課長が、普通に考えるとおかしい……と裏で色々調べてくださっていました。本人が気付いていないところで病気がかもしれないと考え、ADHDの可能性に辿り着き病院へ通うことを勧められました。病気を疑われたときは嫌なことを言われたと感じましたが、実際に病院へ行くとその通りの診断結果。薬を服用したことで改善したこともあり、さらに旭紙工が病気を受け入れ向かい合えたことで良い方向に進んでいると感じています。そして私の異変に気付きアドバイスをしてくれ、見守って

瓜破工場 折部門 落 優輝

旭紙工株式会社で、瓜破工場の折部門に所属する落さん。途中辞めることを考えたこともありながら、今では責任ある仕事を任される日々を送っています。入社して十年ほど経つ落さんに、長年続けてこられた理由やプライベートについても話を聞きました。



もらった寺山課長の優しさのお陰で続けることができました。

——では、これまで苦勞した経験はありますか。

社員1人で夜勤対応をしていた頃は代わりがないため、休みをなかなか取得できず大変に感じることはありました。病気がかかれば周りに迷惑をかけるので、極力休まないように体調管理には気を配っています。しかし今は加藤工場長が夜勤にいることもあり、私が不在のときには見てもらえるようになりました。

——次に、仕事のやりがいを感じるのとはどのようなときですか。

上司と一緒に仕事をしていた際は、指示通りに進めていければ良いという



気楽さがありました。今は社員が1人で、責任が伴うため大変さはありますが、自分で効率的に進める方法を考えながら作業する楽しさも感じています。

——プライベートと仕事との両立について教えてください。

妻と7歳の長女と6歳の長男がおり、平日は家族と生活が逆転するので、休日は家族と一緒に買い物に出かけることが多いです。そして以前は調理専門学校へ進みたかったこともあり、休みの日は趣味で晩ごはんを作っています。子どもたちが私の作るハンバーグが好きで、ここ最近では毎週ハンバーグ。妻も同じ会社で勤めているため、仕事への理解があり非常に有り難いですし、心強く思っています。

——最後に、今後の目標を教えてください。

去年は1年を通してミスなく過ごせると思いきや、年末に不良を出してしまいました。今年こそは1年を通して不良を出さないように、確認を怠らず正確でスピーディな対応を

——まずは、入社の際の経緯を教えてください。

高校を卒業後、2012年4月に入社しました。元々は料理の専門学校に行きたいと考えていましたが、奨学金制度を受けられず就職に切り替えました。学校で求人票を見ながら家から通える距離の企業を探し、初めて面接をして雰囲気も良かった当社への入社を決めました。当初は専門学校への進学を希望していたこともあり、縁があれば何でもやってみようという気持ちで正直なところでした。当社の面接を受けようと考えた理由は、求人欄に書かれていた「カレンダーの生産が大阪で一番」というアピールポイント。いずれの分野であっても、一番と誇れる会社は良いと思ひ惹かれました。

——約10年にわたり仕事を続けてきた最大の要因は、どのようなところですか。

今は折部門の夜勤責任者として、タイ人の研修生7〜8人を統率しながら機械のセットをしています。4年前までは先輩社員と共に仕事をしていたのですが、社員が1人となった

心がけます。また研修生が失敗したときにも、なかなか怒れない性格のため、甘いと言われることがあります。今後は言うべきところは伝えるようにすることで、更にグループとしての効率化や生産性を上げたいと思います。

頼れる夜勤責任者として日々仕事に邁進している落さん。これからも研修生を取りまとめながら、会社の発展を支えていくことでしょう。



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ◆ ※創業：1963年
- ◆ 年商：14億円
- ◆ 従業員数：200人

設備紹介

—A2 14枚全自動丁合機—



カレンダー製作に欠かせない全自動丁合機。ベテラン社員も今や思い出せないほど昔から稼働しています。この機械の役割と、社内でメンテナンスをやり繰りしながら、大切に使い続ける社員たちの努力をご紹介します！



私が紹介します！

まつお たけし
松尾 剛志さん
工場本部 本社 マルチ部門
課長

名前の通り、
自動で丁合を
する機械。
カレンダーのみに
使用しています

Q.A2 14枚全自動丁合機とはどのような機械ですか？

丁合とは、ばらばらになっている紙を順番通りに重ねていくことを言い、これはそのカレンダーの丁合を自動で行う機械です。通常、本の丁合は製本の工程で行うため、製本機の中で完結します。一方カレンダーには、上部を厚紙で綴じるだけの物もあり、その場合製本は必要ないので、製本機ではなくこの機械にかけられるのです。

機械の仕組みは、部品に付けたマスキングテープでカレンダーの用紙を押しさえつけるようにして1枚取り、爪のような部品で引っ掛けて別の台に持っていき、というものです。これは、わかりやすく、昔ながらの仕様と言えるかもしれません。

この機械の全長は約10Mもあり、丁合のスピードは1時間につき1200～1300部。上質紙のA2またはB3サイズだけがかけられ、名前の通り、台は全部で14台あります。それぞれの台に、ひと月毎のカレンダーを置いていく作業は人の手でやります。カレンダーは12か月分の紙と表紙の13枚できているので、必要な台は13台だけではないかと思われるかもしれませんが、しかし、たまに表紙の後ろに別の紙が入る物もあり、そういう場合のためにもう1台があるのです。

稼働のピークは
10月～11月

社内には
わずか1台のみ

とにかく古いが、
大切にしています

不具合の
原因がわかる
ベテラン社員が
担当

5名が
交代で担当

今後も大切に
ずっと使いたい

Q.いつ使用するもので すか？

カレンダー用なので、稼働期間は限られています。毎年9月から始まってピークは10月～11月です。

Q.その機械は何台あり ますか？

1台だけです。

Q.現在の機械はいつ導入されたものですか？

とにかく古い機械なので、具体的な時期はわかりません。製造したメーカーは既に廃業しているため、故障した際は社内の技術開発部がメンテナンスをしています。部品も専用の物はないので、直す際はよく似た物を手配して使用しているそうです。普段のメンテナンスとしては、マルチ部門の社員が稼働させる前に油を差しています。

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

特にありません。慣れれば誰でも使える機械です。ただ不具合を起こして停止した際に、どこに問題があったのかをちゃんと理解して調整できる人でなければ、復旧させたときにたちまちカレンダーの落丁を起こしてしまいます。そのため、社歴20～30年のベテラン社員たちが使うようにしています。さらに、紙の癖によって、調子良く丁合できるときとそうでないときがあるので、紙の状態を見ながら、14台それぞれで上下運動のセンサーを微調整する必要があります。私自身もこれまで17～18年使ってきましたが、まだ完璧に使いこなしている自信はありません。ベテラン社員たちは機械の不具合を見て、すぐに調整できるので、助かっています。

Q.現在この機械 を使用できる方 は何名いますか？

5名です。今後のために、他の中堅社員にも、ベテラン社員や私がい方を教えています。

Q.今後の目標はありますか？

この機械が動かなくなってしまうらとても困るので、稼働前に忘れずに油を差すなど日々のメンテナンスをしながら大切にしていきたいと思っています。通常は現場のオペレーターがマニュアルを見ながらする作業ですが、私自身もしっかり管理していくつもりです。

